

## SAT 情報交換会 (2/21) 報告

SAT では、テクノロジー・ショーケースや SAT フォーラムといった大きなイベントのほか、随時、研究交流会やテーマを決めた情報交換会を開催しています。

平成 26 年 2 月 21 日 (金) 夕方、筑波大学医学医療系消化器外科・臓器移植外科教室のご協力により、「IT 利用ナビゲーション外科手術と周辺技術」をテーマに、SAT 情報交換会を開催しました。参加者は SAT から 24 名、ほかに筑波大側からも何人かご参加いただき、合計で 30 名ほどになりました。

この情報交換会は、筑波大学側の懇切丁寧なご支援で、病院施設見学会・講演会・意見交換会・懇親会、というプログラムで行われました。

見学は 2 グループに分かれ、セキュリティ対応でタグをつけてもらい、また病院から支給のマスクを着用して、MRI 施設、ICU (手の洗浄が必要)、特別病室などを回りました。特に ICU では、明るく清潔で、監視体制のしっかりした状況を見せていただいて、最近の病院施設の充実ぶりに感銘を受けました。

次に講演会です。ご講演に先立ち SAT の丸山総務委員長から、筑波大学病院消化器外科へのお礼挨拶がありました。

ご講演は、上記外科教室の大河内信弘教授。英文専門誌のエディターを務められるなど、大河内先生は肝・胆道系の外科的疾患および移植手術の権威です。演題は今回の情報交換会と同じ「IT 利用ナビゲーション外科手術と周辺技術」でお願いしました。

近年、医療の高度化や訴訟問題のため、外科医師は減少しつつあり、10 年 20 年後には手術が受けられなくなるかもしれないとのこと、若手を育てるために IT を駆使し、肝臓の構造や血管、血流の範囲、手術時の変形や力感などをバーチャルに何度も経験してもらい、また、手術室では、見上げる位置にある TV 画面に、CT 肝臓写真を提示、必要に応じてノンタッチで画像回転させ、手術手順を確認するなどなど……。医工連携は急速に進んでおり、このような肝臓の構造や手術状況など、動きを伴った形で IT 型の教科書にしていきたい、とのことでした。

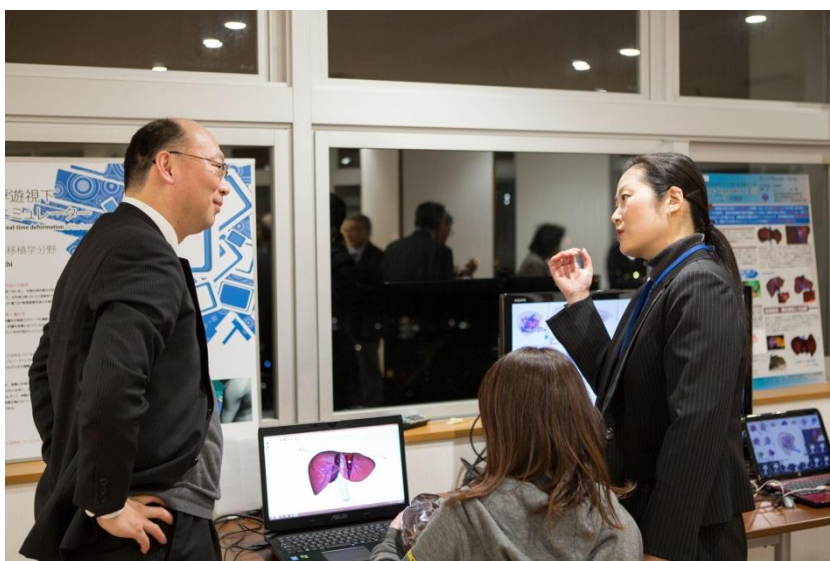
外科は実は床屋さんから始まった、という思いがけないお話から始まり、ご講演は分かりやすく、興味津々で質疑も大いに盛り上がりました。質疑の中では、広い分野の専門家の力を結集するとなると、中心にいる人の熱意がものを言うといったお話も出ました。研究の最先端では、厳しいやり取りもあるに違いありませんが、大河内先生の穏やかなお人柄が、プロジェクトの要になっているように思いました。私も初歩的な恥ずかしいような質問をさせていただいたのですが、にこにこしながら丁寧にお答えいただいて、申し訳ないような気

持になりました。

講演後の意見交換会では、総合科学として医学は工学を積極的に取り入れている、逆に工学その他の分野は、医学の知識を取り入れるべきではないかと会場の意見を求めたのですが、大きな課題ですので、すぐには答えが出てきませんでした。しかし、今日のご講演を通じて、医工連携の現状について知識が広がり、異分野交流の新しい視点が与えられたように思います。



懇親会には 20 名ほどのご参加がありました。消化器外科大城講師の司会のもと、特別ゲストの整形外科山崎教授から乾杯ご挨拶をいただき、そのあと 1 時間ほど、和やかな懇談が続きました。ご参加の皆さん、会場のあちこちで名刺交換しておられて、研究交流の出発点としてよい機会になったように思います。



また、会場わきにはTV画面を用意していただいております、ここで皆さん、ノンタッチの画像回転などを試しておられました。懇親会の最後は、SAT 岡田副会長にご挨拶いただき、一本締めで締めさせていただきました。

本情報交換会は、もともと大城講師がテクノロジー・ショーケース 2013でご発表くださったのが縁でして、医工連携の典型例として興味深く、その後賛助会員交流会・小規模な研究情報交換会の議論を経て、開催することになったような次第です。

今回の情報交換会、非常に充実した有意義な会になりました。大河内先生はじめ、筑波大学医学医療系消化器外科・臓器移植外科教室の皆様、ご関係の皆様にご心よりお礼申し上げます。 (文責：コーディネーター 溝口)

